

創刊700号 記念特集

未来を創る3つの提言

私たちの未来はどこに繋がっている？

ジェンダーの平等、地域格差、食品ロス、気候変動―。身の回りに存在するこれらの問題に、私たちはどれほど真剣に向き合っているだろうか。

昭和32(1957)年5月に創刊した国学院大学学報は、今号で700号の節目を迎えた。過去から現在、そして未来へと続くレールの上にいる私たち。しかし、コロナ禍によって目の前に開けていると思っていた未来は、予測不能の世界となった。そして私たちの生活は劇的に変化し続けている。冒頭に示した問題は、いずれも国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」で2030年までの達成を目指して掲げられている17の目標に繋がる。

今号では、700号という節目にあえて未来に目を向け「2030年へ社会や私たちの生き方は変わるのか？」という疑問を各界の最前線で活躍する3人にぶつけた。

社会学者の水無田気流経済学部教授は、これからの家族や暮らしを考えるうえで「身近すぎて客観的に見ることが難しい社会構造について学ぶ」意義を強調。長崎県平戸市の離島・度島で神職として奉職する傍ら、集落支援員、「度島地区まちづくり運営協議会」事務局員として活躍する卒業生・森健司さん(平26卒・122期神文他)は地域の未来を見据えて「島や神社の存在が、『進んで応援したい』と思われるものにしなければならない」と奮闘中だ。

発酵技術を駆使して、循環型社会の構築に取り組むファーマンステーションの酒井里奈社長は「循環型経済は今後、常識になる」とし、消費者に「身の回りのモノの背景を気にかけるような感覚を身に付けて」と提唱する。学内外の3人の言葉には、私たちの未来を明るく照らすヒントがあふれている。

【8～11面関連記事】

みはるかすもの

1年前の最初の緊急事態宣言の際は静かだったキャンパスに、学生の姿が戻ってきた。「早速友達ができた」と笑顔の1年生。対面授業と遠隔授業が入り交じる日々にも「充実している」という声も聞かれた▼学生たちは感染対策にも余念がない。話を聞いた学生の中には、「教室では座席の間隔が離れているので不安はない」と話す学生がいる一方、「授業の入退出時は必ず手指消毒をする」「検温は欠かさない」など感染対策に慎重な様子がうかがえた。全国各地で日々、感染の再拡大が伝えられている。空間を共有する者同士、自覚をも

って感染対策を徹底したい▼手洗いうがいだけでなく改めて考えたいのは、コロナ禍で社会に広がる他者への負の感情だ。米国では、アジア系住民を狙った暴力や差別的な言動が後を絶たない▼昨年4月の本紙で紹介したが、感染症には「病氣」「不安」「嫌悪、差別」の3つの顔があると、日本赤十字社は公式サイトで警鐘を鳴らす。感染症への意識は、個人や家庭によって異なる。家族や周囲に重症化のリスクが高い高齢者がいる家庭では、殊の外細心の注意を払っていることだろう▼約1万人いる本学の学生はそれぞれ環境が異なる。さまざまな感情を抱き、日々の学修に臨んでいるに違いない。他者との違いや差異を、不安や嫌悪を生む芽にしてはならない。違いに気づき、受け入れる心が求められている▼「手や足の汚れは常に洗へども心の垢を洗ふ人なし」。



令和3年度の学部、神道学専攻科、別科神道専修の入学式が4月2日、グラนด์プリンスホテル新高輪(東京都港区)で行われた。真新しいスーツに身を包んだ、新入生2347人が、学生生活のスタートを切った。

昨年は、新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせたため、2年ぶりの入学式になった。感染防止対策を徹底し、新入生はソーシャルディスタンスをとり、式に臨んだ。国歌や校歌は、音楽に合わせ心の中で斉唱した。

針本正行学長は新入生に向けて「全世界を襲ったコロナ禍は、さらにデジタル化を加速させ、社会構造、産業構造に大きな影響を与え、今まで以上に、人間の働き方、生き方を問い直すことになる」と話し、「機器の進化による研究の進展と引き換えに学びの実感を失うことのないようにしたい」とともに学びの道を歩むことを呼び掛けた。

各学部の新入生の代表がそれぞれ宣誓し、仲間や友人と目標に向け、切磋琢磨しながら充実した4年間にすることを誓った。

【2・16面に関連記事】

令和3年度 学部・専攻科・別科入学式
「学びの道、共に歩む」決意新た

卒業奉告祭・入学奉告祭を斎行

3月19日に卒業奉告祭（斎主・茂木貞純 神殿奉斎員〔神道文化学部教授〕）が、4月1日に入学奉告祭（斎主・大野靖仁 神殿奉斎員〔法人事務局部長〕）が国学院大学渋谷キャンパス神殿で斎行された。卒業奉告祭には、佐柳正三理事長、針本正行学長、教職員らが参列。例年修了を迎える別科生らが伶人として奉仕していたが、緊急事態宣言下であることなどを考慮し見送られた。

入学奉告祭は、佐柳理事長、針本学長ら役教職員と新入生代表が参列した＝写真。



学校法人国学院大学人事

学校法人国学院大学の理事、評議員などの人事は次の通り。その他の人事は **5面参照**。

◇理事

【退任】

▷木村好成（学校法人国学院大学栃木学園前理事長・故人） 令和2年11月14日付

▷鎌田薫（早稲田大学前総長） 令和3年3月31日付

【選任】

▷川福基之（学校法人国学院大学栃木学園理事長） 令和3年1月28日付

▷武智浩二（大学事務局長） 令和3年4月1日付

※いずれも任期は5年4月7日まで

◇評議員

【退任】

▷木村好成 令和2年11月14日付

▷根岸茂夫▷橋元秀一▷武田秀章▷野呂健

▷橋本憲市郎▷鎌田薫 以上、令和3年3月31日付

【新任】

▷川福基之 令和3年1月28日付

▷矢部健太郎▷星野広和▷笹生衛▷山西治男

▷仙北谷穂高 以上、令和3年4月1日付

◇顧問

【退任】

▷川福基之 令和3年1月28日付

【新任】

▷鎌田薫 令和3年4月1日付

※委嘱期間は令和5年3月31日まで

コロナ禍が令和3年度一般選抜の志願者数にも影響

令和3年度最後の一般選抜入学試験となるB日程入学試験は、今年度から2月下旬から3月2日へと移行して行われ、2209人が受験した。今年度の一般選抜入試志願者は、1万9345人となり、前年比75%となった。一般選抜の志願者数が2万人を下回ったのは、平成26年度以来7年ぶり。

今年度は、18歳人口の減少、大学入学共通テストに代表される入学者選抜改革の初年度にあたり、既卒者生をはじめ大学志願者総数の減少と、1人当たりの出願校数の減少が見られたほか、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、経済的にも負担が少ない地元志向や私立大学への敬遠傾向が見受けられた。さらに本学では、V方式Ⅱ期を廃止したことなど、複数の要因が重なった結果と考えられる。

令和3年度学部・専攻科・別科入学式

新入生、期待胸に前へ

5学部、神道学専攻科、別科神道専修の入学式では学生たちは新生活への期待に胸を膨らませた。

新型コロナウイルスの感染対策のため、学部ごとに4回に分けて式典は挙行され、保護者らには式の様子をリアルタイムで動画配信した。また、会場ではサーモグラフィカメラによる検温が行われたほか、各学部が入れ替わるタイミングに合わせて、空間消毒を行うなど、入念な対策がとられた。

学長告辞の後、在学生の保護者でつくる若木育成会の堀江久会長が「社会に出る前の最も贅沢で貴重な時間、学生でいられる時間は長いように感じるが、あっという間。さまざまなことにチャレンジしてほしい」とあいさつした。続いて文学部の矢部健太郎、経済学部の星野広和、法学部の一本孝之、神道文化学部の西岡和彦、人間開発学部の成田信子の各学部長が歓迎の言葉を贈った。各学部の代表の学生らが壇上に上がり、学生生活への抱負を語った。

入学式に出席した新入生の成瀬祥子さん（経営）は「地方の活性化策について関心があるので、実

際に地方に通いながら学びたい。

高校ではバレー部だったので、運動系のサークルに入りたい」と話した。鈴木玲菜さん（同）も「さまざまな企業でインターンシップに挑戦して、自分の将来を決めたい」と夢を語った。相葉優宇さん（同）は「高校時代にやりたいことが見つからなかったのので、大学では自分のやりたいことを見つけたい」と期待を込めた。

寺崎信至さん（神文）は都内の神社に住み込んで実務を学びながら、夜間の講義を受ける。「講義では実践的なことを学び、神職に生かしたい」。松尾圭吾さん（神専攻）は「大学では化学を専攻していたが、神職をしていた祖父の影響もあって、専攻科を目指した。神職の道を模索したい」と話した。

針本学長告辞要旨

学びは生きる糧に

現代社会は情報・技術革新が進み、AIの活用によって、社会課題の解決や新たな価値創造が可能

であるともされている。コロナ禍

は、さらにデジタル化を加速させ、社会構造、産業構造に大きな影響を与え、今まで以上に、働き方、生き方を問い直すことになるだろう。機器の進化による研究の進展と引き換えに、学びの実感を失うことのないようにしたい。

コロナ禍は、大学の学修形態にも大きな影響を与えた。令和2年度は、感染拡大防止のためにリモートによる授業が導入された。教員と学生が協力する中、新たな学びの在り方も醸成された。

いかなる授業形態を採用しても、大学は、教員が学生へ一方的に知識を伝達する場ではなく、既存の「知」に挑み、新たな「知」を創造する場であることに変わりはない。既存の学問知を疑うとはどういうことなのか、授業を通し、心に問いかけてみてほしい。いかなる社会状況でも「学ぶこと」は無限の可能性を持った人間にとって、生涯にわたって紡ぎ出されていく「知」の源であり、生きる糧となるものだ。ともに学びの道を歩いていこう。



座席の間隔が広くとられた入学式の式場。登壇者もマスクを着用した

大学院 入学式

針本学長「新たな学問知の構築を」

大学院の令和3年度入学式は4月1日、渋谷キャンパス百周年記念講堂で、座席の間隔をあけるなど感染対策を講じて挙行された。役教職員が出席し、新入生98人が新たな研究者として一歩を踏み出

した。

針本正行学長は告辞で、本居宣長の『うひ山ぶみ』や『論語』『学而篇』の一節を紹介して研究に向かう姿勢を示した。その上で「新たな学びの在り方を模索し、資料の収集分析、研究者との出会いを楽しむにしたい。研究することの意義は何かを不断に自己に問いかけ、それぞれの研究分野において新たな学問知の構築を目指されるよう期待している」と呼びかけた。佐藤長門大学院委員長は「日本のことを学んでいようと日本のことだけに固執せず、絶えず外国の成果から学ぶべきものは学ぶ柔軟性と広い視野を持つて学問の道を進んでいってもらいたい。そのような姿勢こそ本学大学院で学ぶ意義だ」と祝辞を述べた。

これに対し、新入生を代表して長谷部晴彦さん（博後文Ⅱ写真左）は「周囲の協力の下、研究ができることを自覚し、感謝の念を忘れず目標に邁進する所存だ」と述べ、大学院での飛躍を誓った。

コロナ禍の卒業 黑板アートなどで彩り

緊急事態宣言下で挙行された卒業式。渋谷・たまプラーザ両キャンパスに分かれて行われた卒業証書などの授与では、遠隔授業で会うことができなかった卒業生たちの門出を黑板アートなどで彩った。

渋谷キャンパスでは、本学マスコットキャラクター「こくびょん」の口元をデザインしたマスクシールとマスクを希望者に配布。久々に再開した友人や家族、マスク姿のこくびょんと記念写真を撮っていた。

人間開発学部生の卒業証書授与が行われたたまプラーザキャンパスでは、教室にキャンパスなどを描いた黑板アートを用意＝写真。教室に入った卒業生からは喜びの声が聞かれた。



学長特別賞に出口さん 学生部長賞には4人

令和2年度の学長特別賞と学生部長賞の受賞者が決まった。

学生部長賞の中から、特に優れた功績を残した者に贈られる学長特別賞は、出口颯涼さん(史4)が選ばれた。出口さんは、3年連続で成績最優秀者として表彰されたことが評価された。表彰式は3月21日、グランドプリンスホテル新高輪で挙行された卒業式直後に行われ、文学部の卒業生らが見守る中、針本正行学長から表彰状と副賞が贈られた＝写真。

学生部長賞には4人が選ばれた。受賞者は次の通り(敬称略)。表彰式は実施されず、個別に表彰状と副賞が授与される。

※学年は3月時点

◇出口颯涼(史4)＝「国学院大学成績優秀者奨学制度」成績最優秀者3年連続表彰◇相田勇司(法3・柔道部)＝講道館杯全日本柔道体重別選手権大会兼全日本選抜柔道体重別選手権大会男子66㎏級準優勝◇武岡毅(日文3・柔道部)＝同大会66㎏級3位入賞◇小島叶愛(初教3)＝関東学生卓球選手権大会ベスト4入賞(第4位)



観光学部観光まちづくり学科 (仮称)設置認可を改めて申請

国学院大学は、令和4年4月の開設を目指して観光学部観光まちづくり学科(仮称)の設置認可を文部科学省に申請した。同学部については、令和3年4月の開設に向けて準備を進めていたが、審査過程における指摘を踏まえ、2年10月に申請を取り下げていた。その後、教育内容や教員組織などについて改めて検討を行い、今回の再申請に至った。

参加者はマスクを着用し、座席の間隔を広くあけて挙行された



入場時にはサーモグラフィによる検温が行われた



令和2年度第129回卒業式は3月21日、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」で、佐柳正三理事長、針本正行学長ら役教職員と卒業生が出席して挙行された。学部・専攻科・別科の卒業生2448人は針本学長らから多くの激励を受け、学び舎を巣立った。

午前は神道文化学部・人間開発学部・専攻科・別科、午後は法学部・経済学部・文学部の順で式典が4部に分けて行われた。針本学長が各学部の総代に卒業証書・学位記を、専攻科、別科修了生総代

に修了証書を授与した。卒業生の家族らは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、インターネット動画配信で晴れの舞台を見守った。国歌や校歌の斉唱は、音楽に合わせて心の中で歌うなど、感染対策を徹底した。

式典では針本学長が式辞を述べ、国学院大学院友会会の吉田茂穂会長が祝辞を送った。各部の式典で、石川則夫文学部長(当時)、橋元秀一経済学部長(当時)、一木孝之法学部長、西岡和彦神道文化学部長、成田信子人間開発学部長が「卒業生に贈る言葉」を披露し、卒業生を激励した。

その後、午前の式では、神道文化学部の杉浦みどりさん、午後の式では、法学部の竹嶋夢希さん、経済学部の森舞子さん(経ネ)、文学部の出口颯涼(史)さんが答辞を述べた。式典が終わると、それぞれのキャンパスに移動し、卒業証書・学位記、修了証書を受け取った。

松尾真美さん(神文)は「コロナ禍の1年は対面授業ができずにオンラインになって残念だったが、念願の神職に就くことができる。私は不登校を経験しているのので、同じ境遇の人たちの役に立てるような仕事がしたい」と話した。

相馬海斗さん(法)は「軟式野球の部活動の仲間たちと過ごした時間は自分にとって貴重だった。就職する会社で野球を続けるかどうかはわからないが、大学時代の仲間とは何らかの形で繋がりたい」と話した。

針本学長式辞要旨

学びの火を消さず 扉を敲き続けよう

「知」への欲求がある限り、生きる糧になる。「卒業」は学びの終わりではなく、新たな学びの始まりであり、一人の人間として、新たな創造を目指し、動き始める「始業」でもある。今日まで、それぞれの専攻分野の「学問知」について、仲間と議論をし、新たな「知」の創造に挑んできた。また、課外活動においても、先輩から技術、学芸を学び、後輩へ継ぐという「学び」もあった。

コロナ禍で自己の学びの意義を自身の心に問いかけたと思う。遠隔授業の体験により、学ぶことへの火を消さない限り、いつでも、どこでも、学ぶことができることを実感した。不断に、「知」を探求し、「学び」の扉を敲き続けてほしい。必ずや、皆さんの内にある、多様で、尽きることのない、無限の能力に出会う。国学院大学という学び舎から、天がける鳳のごとく、飛翔することを心から祈念している。

大学院 学位記授与式

針本学長

「研究史に確かな足跡を」

令和2年度の大学院学位記授与式が3月19日、渋谷キャンパス百周年記念講堂で、佐柳正三理事長、針本正行学長、根岸茂夫大学院委員長(当時)をはじめ、役教職員らが出席して行われた。

式典では、大学院博士後期課程修了生12人の氏名と論文が紹介され、針本学長が博士學位記を授与。続いて、博士後期課程所定単位修得退学者15人の氏名が読み上げられ、博士前期課程修了生69人に対する修士學位記の授与が行われた。



ルを送った。

これに対し、大学院博士前期課程修了生を代表した箕輪有朝さん(博前史)は「イレギュラーに追われ、思うように大学に入ったりすることもなかった今年度、成果を上げることができた修了生一同が感謝の思いを感じていると思う」と答辞を述べた。

式典は、アルコール消毒液での手指消毒やマスクの着用など新型コロナウイルスの感染対策を徹底して挙行された。

令和3年度予算成立

令和3年度学校法人国学院大学予算が、3月26日開催の理事会・評議員会で承認、成立した。

◇資金収支予算
資金収支予算は会計年度中のすべての収入予算および支出予算の内容と支払資金の顛末を明らかにすることを目的としている。

◇事業活動収支予算
事業活動収支予算は、①教育活動②教育活動以外の経常的な活動③前記2項以外の活動に対応する事業活動収支の内容を明らかにするとともに、当該会計年度において基本金に組み入れる額を控除した、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入および事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としている。つまり、「3つの活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにする（区分経理）」、「均衡の状態を明らかにする（収支の均衡）」を主な目的としている。

詳細は、学校法人国学院大学ホームページに掲載している。（財務部経理課）

資金収支予算書 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで (単位：百万円)

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	前年度予算	増 減	科 目	予 算	前年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	13,306	13,211	95	人件費支出	10,097	9,954	143
手数料収入	732	712	20	教育研究経費支出	4,058	4,717	△659
寄付金収入	327	377	△50	管理経費支出	1,269	1,280	△11
補助金収入	2,599	2,660	△61	借入金等利息支出	11	12	△1
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	760	770	△10
付随事業・収益事業収入	141	73	68	施設関係支出	144	6,384	△6,240
受取利息・配当金収入	173	173	0	設備関係支出	243	564	△321
雑収入	476	589	△113	資産運用支出	3,121	3,947	△826
借入金等収入	576	586	△10	その他の支出	481	630	△149
前受金収入	2,714	2,453	261	予備費	449	449	0
その他の収入	1,284	8,110	△6,826	資金支出調整勘定	△328	△432	104
資金収入調整勘定	△2,657	△2,996	339	当年度支出合計	20,305	28,275	△7,970
当年度収入合計	19,671	25,948	△6,277	翌年度繰越支払資金	7,375	8,009	△634
前年度繰越支払資金	8,009	10,336	△2,327				
収入の部合計	27,680	36,284	△8,604	支出の部合計	27,680	36,284	△8,604

事業活動収支予算書 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで (単位：百万円)

教育活動収支	収入の部	事業活動	科 目	予 算	前年度予算	増 減
			学生生徒等納付金	13,306	13,211	95
			手数料	732	712	20
			寄付金	324	351	△27
			経常費等補助金	2,597	2,641	△44
			付随事業収入	141	73	68
			雑収入	476	588	△112
			教育活動収入計	17,576	17,576	0
	支出の部	事業活動	人件費	9,897	10,027	△130
			教育研究経費	6,288	6,478	△190
管理経費			1,391	1,416	△25	
教育活動支出計			17,576	17,921	△345	
教育活動収支差額			0	△345	345	
教育活動外収支	収入の部	事業活動	受取利息・配当金	173	173	0
			その他の教育活動外収入	0	0	0
			教育活動外収入計	173	173	0
			支出の部	事業活動	借入金等利息	11
	その他の教育活動外支出	0			0	0
	教育活動外支出計	11			12	△1
	教育活動外収支差額				162	161
	経常収支差額			162	△184	346

特別収支	収入の部	事業活動	科 目	予 算	前年度予算	増 減
			資産売却差額	0	0	0
			その他の特別収入	13	83	△70
			特別収入計	13	83	△70
	支出の部	事業活動	資産処分差額	4	45	△41
			その他の特別支出	0	0	0
			特別支出計	4	45	△41
			特別収支差額			9
	〔予備費〕			449	449	0
	基本金組入前当年度収支差額			△278	△595	317
基本金組入額合計※			△812	△6,202	5,390	
当年度収支差額			△1,090	△6,797	5,707	
前年度繰越収支差額			△14,645	△7,848	△6,797	
基本金取崩額			0	0	0	
翌年度繰越収支差額			△15,735	△14,645	△1090	

(参考)

事業活動収入計	17,762	17,832	△70
事業活動支出計	18,039	18,427	△388

※■第1号基本金 5億1,200万円
教育の質向上のために取得した固定資産の価格
■第2号基本金 3億円
教育の質向上のために将来取得する固定資産取得に充てるもの

注) 各項目の数値は、四捨五入を行っているため、合計欄などと各項目の合計が一致しないことがある

令和3年度入学者数

4月7日現在の学部、大学院、専攻科、別科の入学者数は次の通り。

◎**大学院**◆博士前期課程◇文学研究科65人▷神道学・宗教学専攻13人▷文学専攻31人▷史学専攻21人◇法学研究科▷法律学専攻6人◇経済学研究科▷経済学専攻4人◆博士後期課程◇文学研究科23人▷神道学・宗教学専攻7人▷文学専攻12人▷史学専攻4人◇法学研究科▷法律学専攻0人◇経済学研究科▷経済学専攻0人 (大学院合計98人)

◎**学部**◆文学部714人▷哲学科72人▷史学科192人▷日本文学科257人▷中国文学科67人▷外国語文化学科126人◆経済学部530人▷経済学科270人▷経営学科260人◆法学部▷法律学科519人▶法律専攻419人▶法律専門職専攻51人▶政治専攻49人◆神道文化学部▷神道文化学科212人◆人間開発学部344人▷初等教育学科105人▷健康体育学科137人▷子ども支援学科102人 (学部合計2319人)

◎**専攻科**▷神道学専攻科神道学専攻25人 (専攻科合計25人)

◎**別科**▷神道専修Ⅰ類1人▷神道専修Ⅱ類2人 (別科合計3人) [総計2445人]

対面と遠隔併用し授業開始

令和3年度の前期授業が4月7日から始まった。今年度の授業は、感染防止対策を講じた上で、おおむね50人未満の授業をすべて対面とするなど、通学を前提として運営する。50人以上の授業はハイブリッド授業（対面と遠隔の同時併用）としつつ、感染防止の観点から教室を配当できない授業は、遠隔授業で実施する。

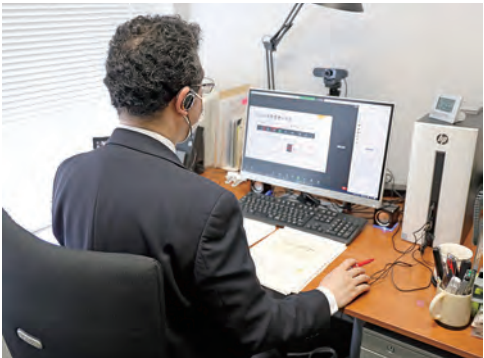
一方で、キャンパス内での手指消毒や検温の実施などの留意事項（12面参照）の徹底を求めている。



授業開始前に遠隔授業の研修会

対面授業と遠隔授業を併用する令和3年度の授業開始に先立つ3月23日、教育開発推進機構主催の遠隔授業研修会が開かれた。専任・兼任の教員が、遠隔授業で使うビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」や学修支援システム「K-SMAPYⅡ」の基本的な機能の紹介を受け、よりよい授業づくりについて考えた。

遠隔授業の基礎的なツールや注意事項を説明した鈴木崇義・教育開発推進機構准教授は「遠隔授業は対面授業に比べて教員と学生の関係性が築きにくい。学生には連絡手段を明示するなど授業開始前に約束事を決めておく」とよいなどと昨年度の経験を踏まえて解説した。



2年ぶりの文学塾 オンラインで6講座



江戸時代に出版された『道中膝栗毛』を見せながら講義する中村准教授

文学部が主催し、高校生や高校教員に専門性の高い講義を行う「文学塾」が3月27日、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使ったオンライン形式で開かれた。平成29年度に始まった文学塾は、令和元年度は新型コロナウイルスの感染拡大で中止となり、2年ぶりの開催となった。今回は、文学部全5学科の教員が講師を務め6講座を開講した。

統一テーマ「見て読んで考える！江戸文化」では近世後期文学などが専門の中村正明准教授、日本美術史などが専門の藤澤紫教授、西洋近代哲学が専門の藤野寛教授がそれぞれ異なる視点から講義を行い、多彩な江戸時代の文化に迫った。

「弥次喜多、旅に出る―膝栗毛文芸の面白さ―」と題して講義を行った中村准教授は、江戸時代随一のベストセラーとして知られる十返舎一九の『道中膝栗毛』が江戸から明治にかけて滑稽本に限らず、他の戯作類や芸能などに影響を与えていることを紹介した。その上で中村准教授は「出版文化が生み出した弥次喜多というヒットキャラクターが、メディアミックス化されて親しまれていった。江戸の庶民にとって文学は身近だったのではないか」と締めくくった。

たまプラーザキャンパス一新

対面、遠隔、多様な
学修スタイルに対応



装いが新たに変わった1号館の外観



平成30年から行われてきたたまプラーザキャンパスの改修工事が完了した。今回の改修工事では、昭和60年の新石川校舎(当時)の完成から35年余りにわたって使われてきた1号館をはじめSPORTS SQUARE 1(SS1)、旧体育館、5号館、若木21を一新。体育館の練習拠点となるSPORTS SQUARE 3も新築された。

1号館は昨年、外構工事を終

え、木材を用いて自然豊かな多摩丘陵と調和したデザインに。2階へのスロープも完成し、各教室へのアクセスがしやすくなった。

コロナ禍により対面授業と遠隔授業が併用される中、多様化する学生たちの学修スタイルに合わせ今回の改修工事では1号館内各フロアに自習が可能なユーティリティスペースが設けられた。地下1階には、プライバシーにも配慮した半個室型の座席が設けられるなど、他人と距離を保ちつつ自習や遠隔授業の受講ができる環境が整えられたII写真中・下。

このほかSS1には、バイオメカニクス実験室や生理学実験室など健康体育学科の特別教室を集約。専門的な知識を学ぶ特別教室は学科ごとに建物やフロアを分け、学生や教職員の利便性向上が図られている。若木21は、令和4年開設に向けて設置認可を申請中の観光学部(仮称)の利用に備えて大幅な改修が行われた。

島村昌利たまプラーザ事務部長は「キャンパスのさまざまな課題を、施設を再配置することで解決し、教育環境の整備を行ってきた。コロナ禍によって、従来以上に必要となった自習スペースも充実させることができた。学生の皆さんには、キャンパスでの時間を有効に活用してもらいたい」と話す。

外国語文化学科
日仏文芸翻訳の現場に触れる

文学部外国語文化学科の「多言語・多文化の交流と共生」プロジェクトの一環として、「言葉を移す、文化を映す(1)フランス語⇄日本語の文芸翻訳をめぐる」が2月26日、オンライン配信で開催された。

複数の文化や言語が交わる現場に着目する同プロジェクトは、9回目の開催。今回は司会の笠間直穂子文学部准教授が「本邦初かもしれない」と話す2人の翻訳家が同じ未邦訳の作品を訳す「翻訳対決」を実施して文芸翻訳について理解を深めた。

「翻訳対決」を行ったのは、フランス文学の翻訳で豊富な経験を持つ翻訳家の田久保麻理さんと谷口亜沙子さん(明治大学教授)。2人が事前に訳したフランス語で書かれたベルギーの小説『ジルの妻』(マドレーヌ・ブルドックス著)の一部を披露し、表現の差異などから翻訳の意図や原文から読み取った作品の情景を話し合った。

現代日本文学の翻訳家ミリアン・ダルトア=赤穂さんを加えた鼎談では、日本とフランスの2つの言語を翻訳するなかでの表現や手法のこだわり、日仏の言語の差異などを語り合い、「翻訳の作業は一人で行うが、翻訳家が集まって話してみると同じことに悩んでいることを知る機会になった」(笠間准教授)と2時間のイベントを締めくくった。



法人の主な役教職員人事

法人の主な役教職員人事は次の通り(※は再任)。

退職

◎法人参事・法人事務局長▽橋本憲市郎(理事は留任)

◎国学院高等学校▽副校長▽細川豊樹(以上、令和3年3月31日付)

委嘱

◎国学院大学付属幼稚園▽園長▽森野ゆかり※

◎国学院幼稚園▽園長▽江口幸子※(以上、令和3年4月1日付)

昇格

◎法人参事・法人事務局長▽城所俊哉(総務部長・たまプラーザ事務部長兼務)

◎国学院高等学校▽教頭▽野島功

◎国学院大学久我山中学・高等学校▽事務次長▽田中正幸(以上、令和3年4月1日付)

大学の主な役教職員人事

国学院大学の役教職員人事で、役職者における異動・新任者などで主なものは次の通り(※は再任)。

役職者

◎学部◆文学部▽学部長▽矢部健太郎

◎副学部長▽谷口雅博▽法学部▽学部長▽一本孝之※▽副学部長▽菊田真司※

◎経済学部▽学部長▽星野広和▽副学部長▽田原裕子▽神道文化学部▽学部長▽西岡和彦※▽副学部長▽笹生衛※

◎人間開発学部▽学部長▽成田信子※▽副学部長▽藤田大誠※

◎大学院▽委員長▽佐藤長門▽代表幹事▽井上明芳

◎文学研究科▽委員長▽佐藤長門▽幹事▽井上明芳▽法学研究科▽委員長▽坂本一登※▽幹事▽高橋信行※

◎経済学研究科▽委員長▽中泉真樹※▽幹事▽細井長※

◎研究開発推進機構▽機構長▽笹生衛

◎日本文化研究所▽所長▽平藤喜久子※

◎学術資料センター▽センター長▽内川隆志

◎校史・学術資産研究センター▽センター長▽齊藤智朗

◎研究開発推進センター▽センター長▽松本久史

◎国学院大学博物館▽館長▽笹生衛※

◎教育開発推進機構▽機構長▽石川則夫▽副機構長▽東海林孝一※

◎教育開発推進機構▽機構長▽石川則夫▽副機構長▽東海林孝一※

◎専攻科長▽茂木貞純

◎別科長▽黒崎浩行

◎学生部長▽宮内靖彦

◎教務部長▽山田佳弘※

◎入学部長▽小田勝※

◎就職部長▽小野正人

◎国際交流推進部長▽岩瀬由佳※

◎たまプラーザキャンパス長▽成田信子※

◎情報センター長▽坂本正徳※

◎図書部長▽遠藤潤※

◎入学試験委員長▽高屋景一※(以上、任期2年)

昇格異動等

◎文学部▽教授▽神長英輔

◎神道文化学部▽教授▽加瀬直弥

◎人間開発学部▽教授▽寺本貴啓

◎研究開発推進機構▽教授▽星野靖二▽宮本誓士

◎総務部長▽中村大介(財務部長)

◎総務部人事担当部長▽総務課長兼務を解く▽樋口秀見(総務部危機管理担当部長・総務課長兼務)

◎教学事務部長▽院担当部長▽長谷川顕子(総務部人事担当部長)

◎たまプラーザ事務課長兼務を解く(たまプラーザ事務部長)▽島村昌利(たまプラーザ事務部長・たまプラーザ事務課長兼務)

◎財務部次長▽管財課長兼務▽細島洋紀(財務部管財課長)

◎総合企画部入学担当次長▽入学課長兼務▽鶴澤英子(総合企画部入学課長)

◎学生事務課キャリアサポート担当次長▽キャリアサポート課長兼務▽木村都(学生事務課キャリアサポート課長)

◎学術メディアセンター事務部情報システム担当次長▽後藤幸雄(学術メディアセンター事務部情報システム課長)

◎学術メディアセンター事務部図書館担当次長▽図書館事務課長兼務▽澤井隆(学術メディアセンター事務部図書館事務課長)

◎総務部総務課長▽安西晴美(総務部総務課担当課長)

◎たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課長▽古澤繁(学生事務部学生生活課担当課長)

◎学術メディアセンター事務部情報システム課長▽川畑敏之(学術メディアセンター事務部情報システム課長補佐)

◎学術メディアセンター事務部情報システム課長▽川畑敏之(学術メディアセンター事務部情報システム課長補佐)

移籍・任用形態変更

◎文学部▽教授▽内川隆志(研究開発推進機構から史学科へ)▽野中哲照(教授(特別専任)から変更)

◎神道文化学部▽教授▽平藤喜久子(研究開発推進機構から)

◎文学部▽教授▽竹内正彦▽水口学▽教授(特別専任)▽上野誠▽澤崎久和▽准教授▽伊藤龍平▽岩橋清美▽助教▽荒木優也

◎法学部▽教授▽岡田康夫

◎人間開発学部▽教授▽鈴木みゆき▽准教授▽渡辺啓太▽助手▽清水香

◎研究開発推進機構▽教授▽池田榮史▽石本東生▽小林稔▽椎原品子▽堀本美告▽教授(特別専任)▽南雲勝志▽准教授▽石垣悟▽高和雄▽金今善▽大門創▽藤岡麻理子▽松本貴文▽専任講師▽仲野潤一

◎客員教授▽嵐山光三郎▽岩下尚史▽北澤豪▽久保田り子▽さだまさし▽佐藤美穂▽東儀秀樹▽平林岳▽松平定知

◎専任▽財務部長▽田中太▽総合企画部エクステンション事業課(試用期間)▽長久保涼▽教学事務部教務課(試用期間)▽鈴木綾華▽学生事務部学生生活課(試用期間)▽樋口萌花▽学生事務部キャリアサポート課(試用期間)▽松本桃花▽学術メディアセンター事務部研究開発推進機構事務課(試用期間)▽三塚広郷▽学術メディアセンター事務部情報システム課(試用期間)▽成瀬真之介▽たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課(試用期間)▽天野凌▽学生事務部学生生活課保健室(保健師・試用期間)▽安芸静香

◎嘱託▽神道研修事務部神道研修事務課▽春田華奈▽総務部総務課(運転手)▽高山明仁▽学術メディアセンター事務部図書館事務課(法学部資料室)▽森久美子▽学術メディアセンター事務部図書館事務課神道文化学部資料室▽松本昌子▽たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課▽曾根田勉

(以上、令和3年4月1日付)

と、心地よい空間や豊かな時間をどう提供するかという地域の計画に目を向け、学生の皆さんとともに自然・文化の特性を大切に観光まちづくりについて考えてまいります。

◆教授（特別専任）

南雲勝志（なぐも・かつし）

①東京造形大学造形学部卒業。永原浄デザイン研究所を経て昭和62年ナグモデザイン事務所設立、代表、現職に至る。
②全国の公共空間の景観、プロダクトデザインに関わる仕事を主に活動、また日本全国の杉材の利活用の取り組みを通して地域の魅力に繋げる可能性を探って来ました。デザイン、ものづくりの実績を通して観光まちづくりの分野に貢献したいと考えています。

◆准教授

石垣悟（いしがき・さとる）

①筑波大学大学院博士課程歴史人類学研究科退学。新潟県立歴史博物館学芸課研究員、文化庁伝統文化課（文化財第一課）文化財調査官を経て現職。
②専門の民俗学をベースに、学芸や文化財行政の経験を活かした教育・研究に取り組みます。これからの（地域）社会に必要とされる新しい学芸員（資格）の養成に尽力します。よろしくお願いいたします。

高和雄（かさみ・かずお）

①東洋大学大学院工学研究科博士後期課程単位取得退学。（一財）学びやの里研究員、NPO法人ふるさと回帰支援センター副事務局長を経て現職。
②専門は都市農村交流・地方移住。地方への関心の高まりによる田園回帰という新たな動きを学びながら、住民が誇りをもって住み続けられる地域づくりの人材を輩出していきたいと思っています。

金今善（きむ・くんそん）

①東京都立大学大学院社会科学部研究科博士課程修了。博士（政治学）。東京都立大学法学部助教、（一財）行政管理研究センター研究員、本学兼任講師などをを経て現職。
②専門は地方自治論、地域政策論です。住民主体の地域政策形成に必要な視点や手法（合意形成）を研究しています。新学部では、持続可能なまちづくりの面から地域の課題の発見とその解決方法について主体的に考えることのできる人材の育成に尽力してまいります。

大門創（だいもん・はじめ）

①早稲田大学大学院修士課程修了、宇都宮大学大学院博士課程修了。博士（工学）。財団法人計量計画研究所研究員、福山市立大学准教授を経て現職。
②都市計画、交通計画が専門です。国学院大学の新学部設置に携われ誇りに思います。実務経験を生かして、地域に根差した人材を育てていければと思います。

藤岡麻理子（ふじおか・まりこ）

①筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程修了。博士（学術）。政策研究大学院大学研究助手、横浜市立大学特任助教などをを経て現職。
②COVID-19を経験している今、「地域」に主眼を置く新学部創設に携われることを一層光栄に存じます。歴史や文化、自然環境などの固有性に根差した地域と社会のあり方を学生の皆さんとともに考えていきたいと思っています。

松本貴文（まつもと・たかふみ）

①熊本大学大学院社会文化科学研究科博士課程修了。博士（学術）。尚絅大学助教、下関市立大学講師・准教授を経て現職。
②農村社会学が専門です。グローバル化の進む現代において、農村の地域社会がどう変わろうとしているのかを研究しています。新学部では、地域やまちづくりの現場に根差した研究、教育に努めてまいりたいと思います。

◆専任講師

仲野潤一（なかのじゅんいち）

①東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程単位取得退学。株式会社マルトラでのソフトウェアエンジニア勤務を経て現職。
②都市工学、数理工学、ソフトウェアづくりへの興味関心を最大限に生かせる場である観光学部（仮称）に関わることができて光栄に存じます。観光というコンテンツを最大限に輝かすことができるよう、教育、研究、情報発信に尽力します。

専任教員の研究業績は大学HP「専任教員一覧」からご覧いただけます。



大学事務局

◆財務部長

田中太（たなか・ふとし）

①昭和63年国学院大学法学部卒業、株式会社三井住友銀行を経て現職。
②多くのご縁が重なり母校に奉職することとなりました。人生には本当に「まさか」ってあるのですね。稀有な出会いを導いていただいた「国学院」の下、微力ながら少しでもご恩返しができるよう、粉骨砕身の思いで頑張る所存です。

◆総合企画部エクステンション事業課（試用期間）

長久保涼（ながくぼ・りょう）

①令和3年3月国学院大学文学部卒業。
②この度母校である国学院大学に職員として奉職できること、大変うれしく思います。大学を取り巻く環境も絶えず変化しておりますが、日々自己研鑽を積み、1日でも早く国学院大学の発展に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

◆教学事務部教務課（試用期間）

鈴木綾華（すずき・あやか）

①令和3年3月国学院大学文学部卒業。
②母校である本学の職員として働けることを大変誇りに思います。学生一人一人に寄り添い、心のこもった対応ができる職員を目指す所存です。「今日の暮らしは昨日にあり今日の丹誠は明日の暮らしとなる」を信条に、今後一層精進してまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆学生事務部学生生活課（試用期間）

樋口萌花（ひぐち・もえか）

①令和3年3月国学院大学文学部卒業。
②母校である本学の職員にご縁をいただけたこと大変光栄に存じます。学生生活課の職員として、諸先輩方から柔軟に知識や業務を吸収し、そのうえで学生一人一人の学校生活の充実に貢献できるよう精進いたします。至らない点も多々あるとは存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆学生事務部キャリアサポート課（試用期間）

松本桃花（まつもと・ももか）

①令和3年3月法政大学社会学部卒業。
②伝統ある国学院大学で働くことを大変うれしく思っております。新人らしい明るさを忘れずに、一人でも多くの学生が豊かな大学生活を送れるよう努めます。先輩からたくさんのご指導を吸収して国学院大学のさらなる発展に貢献できる職員になれるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆学術メディアセンター事務部研究開発推進機構事務課（試用期間）

三塚広椰（みつか・こうや）

①令和3年3月東洋大学経営学部卒業。
②長い伝統のある国学院大学で職員として働くことを大変光栄に思います。右も左もわからない状況ですが、自分から積極的に学び職員として少しでも早く皆さまのお力になれるよう努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

◆学術メディアセンター事務部情報システム課（試用期間）

成瀬真之介（なるせ・しんのすけ）

①令和3年3月中央大学大学院文学研究科博士前期課程修了。
②私は3年間の高校生活を国学院大学久我山高등학교で過ごしました。今再び、職員として国学院大学の一員となれたことに不思議なほど感謝しております。1日でも早く一人前の職員となり、大学の発展に貢献できるよう、日々精進してまいります。ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課（試用期間）

天野凌（あまの・りょう）

①令和3年3月立教大学現代心理学部卒業。
②長い歴史と伝統のある国学院大学の職員として働くことを大変光栄に思います。学生時代に培った傾聴力を存分に生かし、学生一人一人に寄り添ったサポートを行っていきたくと考えております。いち早く本学の発展に貢献できるよう精進してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

◆学生事務部学生生活課保健室（保健師・試用期間）

安芸静香（あき・しずか）

①帝京平成大学ヒューマンケア学部卒業。病棟看護師勤務や健診センター、学校保健室での保健師勤務を経て現職。
②歴史ある国学院大学に奉職できることを大変光栄に存じます。保健師として学生の皆さまのお力になれるよう、尽力してまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

院友神職会から寄付目録贈呈

卒業生の神職によって組織される国学院大学院院友神職会から、研究の振興などを目的として本学に寄付が贈られ、その目録の贈呈式が3月23日に行われた。松山文彦同会会長（昭43修・76期神専攻、東京大神宮宮司）から針本正行学長に目録が手渡された＝写真。

目録を受け取った針本学長は「本学の建学の精神に沿う形で生かしたい」と謝辞を述べた。



法学会懸賞論文 3年ぶりの最優秀賞に平林さん

本学法学部の教員などで構成される法学会が主催し、同学部生を対象にした令和2年度懸賞論文の受賞者が決まった。今回は、法律系12点、政治系12点の応募があり、審査の結果、3年ぶりの最優秀賞に平林晃斉さん（法4）が選ばれたほか、優秀賞に2人、佳作に3人が選ばれた。

授賞式は3月17日、渋谷キャンパスで行われた。受賞者には、法学会理事長の一木孝之法学部長・教授から賞状と副賞が贈られた。一木理事長は「論文を完成させた経験を今後の糧にもらえれば、法学部の教員としてうれしいことはない」と挨拶した。

最優秀賞に選ばれた平林さんは「刑事訴訟法のゼミと自主参加の国際法のゼミと両立しながらの執筆活動で忙しかったが、どうにか執筆できた。先生の指導のたまもの」と苦心を重ねた研究、執筆活動を振り返った。受賞者は次の通り（敬称略、所属学年は当時）。

最優秀賞＝平林晃斉（法4）「被疑者取調べの在り方の展望についての一試論—『予審的視点』による被疑者取調べの適正化を考える—」

優秀賞＝木村凌（法4）「日常における政治の不可能性について」▽細野美緒（法3）「18歳・19歳の者に対する逆送対象事件の拡大について」

佳作＝田口姫香（法4）「あるべきおとり捜査の検討—違法性判断基準の検討を主眼に置いて—」▽山浦啓亮（法4）「取調べの可視化—弁護士立会い制度設立に向けて—」▽高田海斗（法3）「裁判所は年少者の供述証拠をどのように検討すべきか」



令和3年度夏期短期留学 海外派遣を中止

国学院大学は、令和3年度に予定していた学生を海外に派遣して実施する夏期短期留学を中止することを決定した。国際交流推進部は「新型コロナウイルスの収束時期が世界各地で見通せない状況を考慮した」としている。

海外派遣に代わるプログラムとしてオンラインでの留学、日本国内での留学を計画していて、準備が整い次第大学ホームページで公表する。QRコードから確認を。



海外2機関と一般協定締結

国学院大学は、海外の2つの教育機関と一般協定を締結した。協定期間はいずれも5年間。協定内容は下記のとおり。

▽ドイツ・ブレーメン大学

同大学によるドイツ語プログラムへ夏期短期留学(4週間)の派遣を目的として、令和3年3月に締結した。

ブレーメン大学は、ドイツ北部・ブレーメン市郊外にある州立大学。

▽オーストラリア・モナシュカレッジ

同大による英語プログラムへのセメスター留学の学生派遣やオンライン留学への派遣を目的として、3年3月に締結。

モナシュカレッジは、モナシュ大学の部局で、経営母体は同大が100%出資する法人。

国学院大学博物館

居家以岩陰遺跡の研究成果を公開

国学院大学博物館では5月8日(土)まで企画展「縄文早期の居家以人骨と岩陰遺跡—居家以プロジェクトの研究成果—」が開かれ、本学考古学研究室と科研費研究(代表・谷口康浩文学部教授)が推進してきた居家以岩陰遺跡(群馬県長野原町)の発掘調査の成果を公開している。

居家以岩陰遺跡では縄文時代早期を中心に20体以上の埋葬人骨が見つかり、定住化への途上にあった縄文早期の人々の生活と文化を復元できる貴重な遺跡として注目が集まっている。会場では約8000年前の人骨6体が土器や石器などの出土遺物とともに展示されている。

国学院大学博物館のYouTubeチャンネル(QRコード)では「居家以プロジェクト」代表の谷口教授による解説動画も公開している。



派遣研究員の期間延長および変更

国学院大学における派遣研究員の派遣期間延長および変更が決まった。所属・氏名・研究課題・派遣先・派遣期間は次の通り。

◆国外派遣研究員(期間変更)

◇法学部▶安田恵美准教授▷刑務所出所者等の主体的な社会参加とそれを促進するための支援に関する日仏比較研究▷フランス司法省、ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学(仏国)▷令和3年4月1日～9月30日

◆国内派遣研究員(国外派遣取り下げ)

◇文学部▶樋口秀実教授▷「大東亜共栄圏」下における戦後国際秩序の萌芽について—アジア・太平洋戦争末期における日中緬関係に注目して—▷国立国会図書館、外務省外交史料館ほか▷令和3年4月1日～9月30日

◆国内派遣研究員(辞退)

◇経済学部▶星野広和教授

人間開発学部

2教員が学会から表彰

日本スポーツマネジメント学会は3月、令和2年度の学会賞受賞者を発表。学会奨励賞に備前嘉文人間開発学部准教授が選ばれた。受賞論文は「ブランド拡張におけるアスリートによるエンドースメントの有用性について」(スポーツマネジメント研究第11巻第1号所収)。

また、日本体育・スポーツ経営学会の令和2年度学会賞には、町田樹人間開発学部助教の著書『アーティスティックスポーツ研究序説:フィギュアスケートを基軸とした創造と享受の文化論』(白水社)が選ばれた。

新任専任教職員紹介

今年度4月、本学に着任した専任の教職員33人のプロフィールを紹介する。丸数字は①略歴②抱負。

文学部

◆教授

竹内正彦(たけうち・まさひこ)



①国学院大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。博士(文学)。群馬県立女子大学講師・准教授、フェリス学院大学教授などを経て現職。

②源氏物語を主たる対象として、その表現世界のありようを究明することを研究課題としています。学生の皆さんと読む源氏物語がどのような姿をもって立ち現れてくるのか、とても楽しみにしています。

水口学(みずぐち・まなぶ)



①独協大学大学院外国語学研究科博士後期課程満期退学。博士(英語学)。独協医科大学准教授、東洋大学教授を経て現職。

②私の専門は理論言語学です。言語の仕組みや本質を解明し、ヒト固有の言語能力を明らかにすることに取り組んでいます。授業などを通して、言語研究の面白さや言葉の不思議を伝えていければと思っています。

◆教授(特別専任)

上野誠(うえの・まこと)



①国学院大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。奈良大学教授などを経て現職。博士(文学)。奈良大学名誉教授。

②私は本学で2つの恋をしました。1つは人への恋、もう1つは学問への恋。2つの恋は、私を『万葉集』の研究へと導いてくれました。そして、今、「万葉文化論」という旗を掲げて、悪戦苦闘中です。若木が丘での精進をここに誓います。

澤崎久和(さわざき・ひさかず)



①東北大学大学院文学研究科博士課程後期中退。高知大学講師、福井大学助教授、教授などを経て現職。

②中国古典文学のうち主に白居易をはじめとする唐代の詩および唐代の小説を研究しています。古人の残してくれた有名無名の作品を、学生・院生の皆さんと一緒に読んでいくことを楽しみにしています。

◆准教授

伊藤龍平(いとう・りょうへい)



①国学院大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士(文学)。台湾・南台科技大学助理教授を経て現職。

②専門は伝承文学。近世から近現代の事例を中心に、説話の生成と変容について考えています。より良い学びの場を提供し、身近な疑問を種に、伝承文学研究の視点を通して、大所高所から物事を見られる人材を育成したいと考えております。

岩橋清美(いわはし・きよみ)



①法政大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士(史学)。本学兼任講師、国文学研究資料館特任准教授などを経て現職。

②専門は日本近世史で、主として文化史・地域史・天文学史を研究しています。授業は日本時代史・史料管理・保存論などを担当します。本学が所蔵する貴重な近世史料をもとに、学生の皆さんとともに江戸時代の社会や文化について学んでまいりたいと思います。

◆助教

荒木優也(あらき・ゆうや)



①国学院大学大学院文学研究科博士課程後期修了。博士(文学)。本学研究開発推進機構客員研究員などを経て現職。

②和歌文学専攻。母校の専任教員となることの意味を深く重く感じております。コロナ禍を転機として思いのもと、学生のみなさんとともに文学のことばと心を究明することで徳性の涵養に努め、自らの本分を尽くしてまいります。

法学部

◆教授

岡田康夫(おかだ・やすお)



①早稲田大学大学院博士後期課程単位取得退学。東北学院大学講師、准教授、教授を経て現職。

②民法、特に物権法を担当します。民法が私たちの社会生活とどのように深く関わっているのかを、不動産の所有という観点から解きほぐすことで、学生の皆さん

の法を学ぶ力を養っていきます。

人間開発学部

◆教授

鈴木みゆき(すずき・みゆき)



①お茶の水女子大学大学院家政学研究科修了。博士(医学)。和洋女子大学などで保育者(幼稚園教諭・保育士など)養成に携わったのち、独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長を経て現職。

②保育者には子ども理解はじめ家庭・地域など多くの学びが必要です。国学院で保育者養成に関われることを誇りに微力ですが尽力します。よろしくお願いいたします。

◆准教授

渡辺啓太(わたなべ・けいた)



①筑波大学大学院人間総合科学研究科修了。バレーボール女子日本代表チーム情報戦略担当チーフアナリスト、専修大学客員教授などを経て現職。

②専門はスポーツ情報戦略です。実務経験を生かして、スポーツ界でもニーズの高まるIT人材の輩出を目指すとともに、私自身も「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければいけない」という言葉を胸に精進してまいりたいと思います。

◆助手

清水香(しみず・かおり)



①名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程修了。博士(教育学)。現職に至る。

②専門種目は水泳で、専門研究分野は運動生理学です。大学院では運動時の循環応答について研究してまいりました。これからは国学院大学の一員として、皆さんと一緒にいろいろなことに「挑戦」していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

研究開発推進機構

◆教授

池田榮史(いけだ・よしふみ)



①国学院大学大学院文学研究科博士課程前期修了。国学院大学文学部助手、琉球大学法文学部助手、助教授、教授、同大学国際地域創造学部教授を経て現職。

②37年ぶりに母校に戻りました。蒙古襲来の実態解明を目指した水中考古学手法による長崎県鷹島海底遺跡での沈没船の調査研究をさらに進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

石本東生(いしもと・とうせい)



①アテネ大学大学院人文学研究科博士後期課程修了、Ph.D。ギリシャ政府観光局日本支局、奈良県立大学、静岡文化芸術大学などを経て現職。

②ギリシャ・エーゲ海地域を中心に、歴史的な文化遺産や町並みを再生し観光振興を行う「観光まちづくり」を研究しています。国学院大学で新学部創設の一翼を担えることは実に光栄です。

小林稔(こばやし・みのる)



①成城大学大学院文学研究科博士課程前期修了。千葉県立博物館、国立歴史民俗博物館、千葉県教育庁文化財課、文化庁文化財第一課(民俗文化財部門)などを経て現職。

②これまで民俗学というフィルターを通して、特に地域社会と文化財の相関関係について長らく見つめてまいりました。そうした中で培った経験や考え方が、よりよい方向に生かせればと思っています。

椎原晶子(しいはら・あきこ)



①東京芸術大学大学院美術研究科博士課程単位取得退学。同大非常勤講師、山手総合計画研究所、品地域文化研究所、NPOたいとう歴史都市研究会、(株)まちあかり舎などを経て現職。

②身近な環境を自分たちの手でよりよく工夫するアートを通して、自然の恵みや地域の歴史文化を生かす観光まちづくりを皆さんとともに築きたいと願っています。

堀木美告(ほりき・みつぐ)



①東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了。(公財)日本交通公社主任研究員、淑徳大学准教授を経て現職。

②なにを求め旅に出るのかという人間の行動面

創刊700号 記念特集

未来を創る3つの提言

私たちの未来はどこに繋がっている？

国連が2030年の達成を提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」。2030年へこれから社会、そして私たちの生き方は変わるのか？ そうした疑問に向き合う姿勢を①暮らしと家族②地域と神社③持続可能な社会とビジネス—という3つの視点で探してみたい。



島内の浦地区に鎮座する度島神社

「平成26年に故郷の度島へ戻った。『度島地区まちづくり運営協議会』は、『島を住みやすい場所に』という姿勢で全島民を巻き込んで地域活動を展開。活動を通じて島民は、高齢化や過疎化が進む島の実情に向き合うようになったのではない。現在は島外の関係者と島民を繋ぐことに注力している。『度島応援倶楽部』のような組織を作って頑張る島の姿を発信する

度島のまちづくりの現状は

神職として目指していることは

「国学院大学の別科で神職資格を取得して東京の亀戸天神社に奉職。神道文化学部で学び直した。約10年間も東京に出ており、『島にいなかったのに度島人ぶるな』と話を聞いてもらえないこともあった。そんな島民からも『神職のみに許された』『平戸神楽』をきちんと舞うことで一目置かれるようになった。現在は複数の神職が平戸地区の約110社と周辺の神社の例祭（おくんち）で奉納しており、私も年間70〜100回ほど関わっている。神楽が神職力のバロメーターと思われていることは、平戸で神楽が大切にされている表れだ。

度島の未来は

「集落支援員や神職として心がけていることは、『助けてもらう前に、どれだけプレゼントできたか』だ。『時間』を大切にすることが増えて地域活動や祭事が敬遠されがちな中で、こちらの時間をより多く提供（＝プレゼント）して信頼を得ることで人々の貴重な時間を提供してもらえ関係構築したい。島の未来像として、まず『誰もが取り残されることがない度島』とするべきだし、島を出た若者にも『度島があるじゃない』と思ってもらえるような拠り所であり続けたい。45歳になるまで走り続け、これまで関わってきた人々に自慢することが目下の目標。それまでに『度島の魅力はこれだ！』と公言できる物を作りたい。これからより多くの人と関わり続け、島や神社の未来に繋げたい」

離島を人々の拠り所に

視点② 地域と神社

長崎県平戸市度島町集落支援員・度島神社禰宜 森健司さん(平26卒・122期神文他)



森健司（もり・たけし）

長崎県平戸市度島町出身。平成17年、国学院大学別科Ⅱ類を修了し東京・亀戸天神社に奉職。神道文化学部を卒業（122期）した26年に故郷へ戻り、度島神社などの神職を勤めるとともに平戸市度島町の集落支援員（嘱託）、「度島地区まちづくり運営協議会」事務局員としても活動。

視点① 暮らしと家族

経済学部 水無田氣流教授

均質性を打ち破り、自由な家族観持つて

日本社会でダイバーシティ（多様性）の推進が加速している。この10年でジェンダー観や家族観は変わったのだろうか。『居場所』のない男、「時間」のない女（筑摩書房）などの著書がある経済学部の水無田氣流教授に、日本と海外の家族観の違いや、政治や教育現場の男女格差について聞いた。

この10年で家庭での男女の役割は変わったか

「過去20年で女性就業率は上昇したが家事育児介護などケア

ワークは女性偏重のままで、驚くほど構造は変わっていない。それどころかコロナ禍で家族が家にいる時間が増え、女性の負担は大きくなっている。日本の女性に要求される家事・育児の水準は先進国で最も高く、手間数も多い。だがそのためか、既婚女性の家庭生活満足度は先進国で最低水準だ。私がスウェーデンの国会議員に日本のお弁当の写真を見せたら『アート作品だ』と言われてしまったほど。私は平成27年から30年にかけて、複数の研究者とともに日英の家事観に関する調査研究に参加した。その一環で、東京とロ

ンドンの都心、郊外、さらに地方それぞれのエリアでスーパーマーケットの書籍コーナーに置かれている雑誌の種類と数などの違いを調べた。東京都心部は高所得・単身者向けのグルメ雑誌などが多かったが、郊外は料理・弁当が大半を占めた。一方、英国では料理本はほぼゼロで代わりインテリア、ガーデニング、そしてDIYの本などが置かれていた。日本では『家事』料理で、家族で手の込んだ栄養のある料理を食べることが重視されている。これは家事が家庭内で完結しているともいえる。他方英国では『他

人を招き社交のための家造り』が重視されており、ガーデニングやDIYなど夫婦一緒にいるのが大事がメインになっている。女性の大きな違いだ。英国は家事のアウトソーシングも一般的だ。日本でも家事代行が増えているが、税額控除されず一部の層への浸透にとどまる」

ジェンダーギャップ（男女格差）はどうか

「令和3年に公表された日本のジェンダーギャップランキングは156カ国中120位と、先進国最低水準でG7では最下位だった。最大の引き下げ要因は女性の政治参加の立ち遅れで、女性の国会議員も少なく衆議院の女性議員割合は1割、参議院でようやく2割だ。1、2割という数字は地獄の数字と言われていて『紅一点』という状況だ。女性比率が3割を超えるとクリティカル・マスになり、社会に質的な変化を起こすことができる。政治に次いで経済も低い。女性の平均賃金は男性の半分程度、管理職者に占める割合は1割強しかない。日本の職場が多様性とはほど遠い、男性中心の均質性の高い職場が続いてきたことが一因だ」

10年後の社会を変えるにはどんな政策が必要か

「安倍晋三前政権は女性の社会進出を重点施策に位置付け、確かに平成24年から令和元年にかけて日本では女性就業率は約33.8万人増加した。だが、女性被雇用者の多数派が非正規雇用という構図に変化はなかつた

た。このため、コロナ禍で女性の非正規雇用者が失職や雇止めなど雇用の調整弁に使われてしまっている。女性の自殺者数も急増した。前首相が繰り返した『強い経済』のもろさが露呈してしまったといえる。これからは『人間を幸福にする経済』を主眼においた政策が必要だ。出産育児を経て就業を継続できた女性がよく言うせりふに『私は運が良かった』というものがあるが、これが日本社会の問題をよく示している。個人的な運の善しあしで育児資源や職場の理解に恵まれているかどうかではなく、本来誰もが安心して子どもを産み育てることができる社会になればならぬ」

学生たちへメッセージを

「身近すぎて客観的に見ることが難しい社会構造について学ぶことは、大いに意義がある。とりわけ家族やジェンダーについて『親がこうだったから、自分もこうあるべき』と考える学生は少なくない。だがそれは一世代前の家族観・生活観に起因している。学生には過去ではなくこれから自分たちが幸福になるためにどうすればいいのかを考えてもらいたい。初等教育から大学まで、教員の仕事は基本的に学生が将来社会に出たときに、自分の力で幸せになる方法を自ら考え選ぶことができるよう手助けすることだ。その意味で家族観やジェンダーについて学ぶことは極めて重要であり、私の講義がその一助になれば良いと思っている」



(本人提供)

■度島
長崎県平戸市に属する島。平戸島の北4kmに位置し、主な産業は農業と漁業。今年3月時点の人口は659人。

■平戸神楽

吉岐を除く旧平戸藩領内に伝わる神楽で、国の重要無形民俗文化財。江戸中期の元禄年間に、神道家の橋三喜が諸国一宮神楽の要素を取り込んで24番を大成した。

●度島地区まちづくり運営協議会のフェイスブック
<https://www.facebook.com/hiradoshitakushima/>



「支部の集い」にご出席を



因本学の学部・専攻科・別科在学生（外国人留学生除く）の保護者らで組織される若木育成会では、「支部の集い」を5月中旬から開催します。本学の現況、学修・就職状況などの説明に加え、疑問や悩みについて個別面談でも対応します。新入生の保護者

にとっては本学を知る初めての機会ですので、ぜひご出席ください。

日・時・場下表参照

申開催1カ月前頃に案内状を郵送しますので、若木育成会HP（QRコード）から申し込んでください。

固校友課（☎03・5466・0131）



支部名	開催日	開始時間	会場所在地	会場
北海道道北支部	6月6日(日)	14：00	旭川市	ホテルWBFグランド旭川
北海道道東支部	中止			
北海道道央支部	6月5日(土)	14：00	札幌市	北海道神宮頓宮
北海道道南支部	6月19日(土)	14：00	函館市	ホテル函館ロイヤル
青森県支部	6月20日(日)	13：00	青森市	ウェディングプラザアラスカ
岩手県支部	6月26日(土)	14：00	遠野市	あえりあ遠野
宮城県支部	7月25日(日)	13：00	仙台市	ホテルJALシティ仙台
秋田県支部	中止			
山形県支部	7月24日(土)	13：00	山形市	大手門パルズ
福島県支部	5月30日(日)	13：00	郡山市	郡山ビューホテル
茨城県支部	5月30日(日)	13：00	土浦市	L'AUBE
栃木県支部	中止			
群馬県支部	6月5日(土)	13：30	高崎市	ホテルグランビュー高崎
埼玉県支部	6月13日(日)	13：00	渋谷区	国学院大学 渋谷キャンパス
千葉県支部	7月4日(日)	13：00		
東京都第一支部	6月20日(日)	13：00		
東京都第二支部	6月27日(日)	13：00		
東京都第三支部	6月20日(日)	13：00		
東京都第四支部	6月27日(日)	13：00		
神奈川県支部	7月18日(日)	13：00		
新潟県支部	7月11日(日)	13：00	新潟市	アートホテル新潟駅前
富山県支部	中止			
石川県支部	7月31日(土)	14：00	金沢市	ホテル金沢
福井県支部	8月1日(日)	14：00	敦賀市	ニューサンピア敦賀
山梨県支部	5月22日(土)	13：00	甲府市	かいてらす 山梨県地場産業センター
長野県東北信支部	7月31日(土)	13：00	長野市	長野県神社庁
長野県中南信支部	5月23日(日)	13：00	諏訪市	ホテル紅や
岐阜県支部	7月24日(土)	13：00	岐阜市	岐阜キャッスルイン
静岡県東部支部	7月11日(日)	13：30	三島市	富士山三島東急ホテル
静岡県中部支部	7月10日(土)	13：30	静岡市	中島屋グランドホテル
静岡県西部支部	7月25日(日)	13：00	浜松市	ホテルクラウンパレス浜松
愛知県支部	7月18日(日)	13：00	名古屋市	ホテルサンルートプラザ名古屋
三重県支部	7月17日(土)	14：00	松阪市	FREX HOTEL
滋賀県支部	6月26日(土)	14：00	京都市	都ホテル京都八条
京都府支部				
大阪府支部	7月3日(土)	13：00	大阪市	あべのハルカス 会議室25F
兵庫県支部	6月20日(日)	14：00	西宮市	西宮神社会館 福の間
奈良県支部	6月27日(日)	13：00	奈良市	春日大社 感謝共生の館
和歌山県支部	7月4日(日)	14：00	和歌山市	和歌山県民文化会館
鳥取県支部	5月22日(土)	13：30	米子市	ANAクラウンプラザホテル米子
島根県支部	5月23日(日)	14：00	出雲市	ニューウェルシティ出雲
岡山県支部	6月19日(土)	13：30	岡山市	ピュアリティまきび
広島県支部	7月11日(日)	13：30	広島市	広島ガーデンパレス
山口県支部	6月12日(土)	13：00	周南市	遠石会館
徳島県支部	中止			
香川県支部	6月13日(日)	13：00	高松市	高松東急REIホテル
愛媛県支部	6月12日(土)	11：00	松山市	メルパルク松山
高知県支部	中止			
福岡県支部	6月13日(日)	13：00	福岡市	オリエンタルホテル福岡 博多ステーション
佐賀県支部	7月25日(日)	14：00	佐賀市	グランドはがくれ
長崎県支部	7月24日(土)	13：00	諫早市	ホテルフラッグス諫早
熊本県支部	7月17日(土)	14：00	熊本市	KKRホテル熊本
大分県支部	7月3日(土)	14：00	大分市	レンブラントホテル大分
宮崎県支部	7月4日(日)	15：00	宮崎市	ホテルメリージュ
鹿児島県支部	7月18日(日)	13：30	鹿児島市	鹿児島東急REIホテル
沖縄県支部	中止			

※今後の社会状況により、変更が生じる場合があります

アンケート回答者の中から5名様に読者プレゼント

アンケートに回答してくださった方の中から抽選で5名の方に、本学オリジナルブックカバーをプレゼントします。アンケートはQRコードから（締切：5月15日）。なお、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。
アンケート回答者の個人情報、法令に基づきプレゼントの発送に限り使用します。



博物館



無料

原則、水・木・金・土曜日の12時～17時（最終入館16時30分）。短縮開館

※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

特別列品
「神の新たな物語―熊野と八幡の縁起―」

因神社・寺院の由来や、神仏の不思議な力である霊験を語る物語を縁起と呼びます。これらは、社寺や人々の信仰に根ざしたものでした。本展では、国学院大学図書館が所蔵する熊野の神々や八幡神（応神天皇）とその母・神功皇后をめぐる縁起絵巻の数々を展示し、物語から中世の神々の姿を見ていきます。

日5月13日(木)～7月3日(土)

場企画展示室

新型コロナ関連のお知らせ



対面授業受講上の留意事項

因キャンパス内での感染を防ぐため、次の留意事項に基づいて対面授業を受講してください。

●基本的な留意事項

- ◇継続的に手洗い、咳エチケットの徹底を
- ◇「3密」を避ける取り組みを
- ◇免疫力を高める十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事を

●具体的な留意事項

- ◇毎朝検温をし、「検温表」へ必要事項の記入を
- ◇発熱や咳などの風邪症状がみられる場合、同居する家族、身近な知人に感染が疑われる場合は登校を控え、授業は欠席を
- ◇授業開始時に担当教員から求められた場合、『検温表』への記入を
- ◇大学構内では必ずマスクの着用を
- ◇入退館、入退室時には手指消毒の徹底を
- ◇体温調節のできる服装で来校を
- ◇教室では着席不可の席には座らない

感染が疑われたら保健室に連絡を

因新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。

▶保健室アドレス✉hoken@kokugakuin.ac.jp

▶渋谷TEL（平日・土曜9時～17時）

☎03・5466・0148

▶たまプラザTEL（平日・土曜9時～16時30分）☎045・904・7660

「3密」を避けよう

咳エチケット



密閉空間



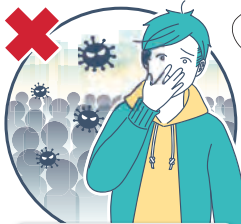
マスクがあれば正しく着用する



密接場面



ハンカチやティッシュペーパーで口と鼻を覆う



密集場所



服の袖や肘の内側で口と鼻を覆う

大学からのお知らせ

大規模火災および地滑りで被害に遭われた皆さまへ

因2月に栃木県足利市で発生した大規模火災、3月に新潟県糸魚川市で発生した地滑り、4月に島根県松江市で発生した大規模火災により災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人（保護者等）と相談のうえ下記の大学各窓口までご相談ください。

因被害対象地域については本学HPで確認してください。

問▶学生生活課（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課（☎045・904・7700）
▶大学院事務課（☎03・5466・0142）

令和3年度学費等納付金について

因令和3年度学費等納付金(前期)口座振替日は、6月21日(月)です。詳細は、4月中旬に発送した「学費等納

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行って下さい

インターンシップ対策講座①「インターンシップ入門&エントリーシート対策講座」

因就職活動の選考で「エントリーシート」や「履歴書」といった書類提出は必須です。インターンシップでも人気企業を中心に、エントリーシートの提出が求められることが増えています。企業は書類のどこをどのように評価しているのかを知り、高評価を得るために自分の何をアピールするのかを解説・ワークを通して学んでいきます。

この講座はインターンシップ対策講座②「エントリーシート実践講座」との2回完結の講座のため、両方とも参加するようにしてください。

※オンライン配信

日・時4月28日(水)5限

因3年生

インターンシップ対策講座②「エントリーシート実践講座」

因大手・人気企業のインターンシップに参加するためには、完成度の高いエントリーシートを作成する必要があり、設問の意味を理解する力が求められます。大手・人気企業のエントリーシートの設問を例に、企業が知りたいことや、作成時のポイントについて解説します。

※オンライン配信（ライブ）

日・時5月12日(水)5限

因3年生

インターンシップ対策講座③「グループディスカッション&面接対策講座」

因就職活動の選考で絶対に避けては通れないのが面接です。面接では分からない個性を見るために「グループディスカッション（GD）」を取り入れる企業もあります。

この講座は、面接やGD突破のポイントを詳細に解説します。講座に参加して、場面や雰囲気に応じた発言やコミュニケーションを取れる適応力を身につけましょう！

この講座はインターンシップ対策講座④「面接実践練習会（6月開催予定）」との2回完結の講座のため、両方とも参加するようにしてください。

※オンライン配信

日5月26日(水)時間未定

因3年生

付金に関する通知」や大学HPをご確認ください。

問▶経理課（☎03・5466・0115）
▶学生生活課（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課（☎045・904・7700）

健康診断の結果および健康診断証明書の発行について

因令和3年度健康診断の結果は6月下旬以降、K-SMAPYⅡの学籍情報照会で確認できます。各種実習、就職活動などで使用する健康診断証明書は、5月上旬から、証明書自動発行機で発行可能になる予定です。

※再検査を受けていないなど所見がある場合、保健室へお越しください

問保健室（渋谷☎03・5466・0148、たまプラーザ

イベント

オープンカレッジ受講生募集

因国学院大学のオープンカレッジはどなたでも受講できる、大学の特色を生かした公開講座です。神道、文学、歴史などの講座を多数ご用意しています。令和3年度は受講者の安全を考慮し対面での開講は行わず、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を利用した**下表**の21のオンライン講座を開きます。特別講座を除く各講座には独自の単位を設定し、累積32単位となった時点で「国学院大学オープンカレッジ修了証」を授与します。講義内容などの詳細は本学HP（QRコード）で確認を。

対・料

【入会金】

▶一般＝5000円

▶院友（本学卒業生）、若木育成会会員（在学生保護者など）、本学科目等履修生、他校学生・生徒＝3000円

▶本学学生・本法人教職員＝無料

【受講料（テキスト代含まず）】

▶5回講座＝1万1000円

▶10回講座＝2万2000円

※若木育成会会員、本学の学生・教職員、渋谷区・横浜市青葉区在住者、他校学生・生徒は半額

申本学HPまたはパンフレット（電話・FAXで請

令和3年度オープンカレッジ開講一覧				
講座名	講師氏名	期	曜	時
神道を知る講座16 神話と古代の祭祀 ―日本書紀1301年を迎えて―	岡田 莊司	通年	水	10：30～12：00
『古事記』を読む	谷口 雅博	通年	土	10：30～12：00
万葉集を読む ―巻三・四を読み直す―	土佐 秀里	通年	木	10：30～12：00
源氏物語講座 ―もう一つの『源氏物語』を読む―	豊島 秀範	通年	金	12：50～14：20
能と文学15 ―古典文学から能へ―	岩崎 雅彦	通年	木	14：30～16：00
短歌を 読む 詠む ―『万葉集』第19～20巻の鑑賞―	豊島 秀範	通年	木	14：30～16：00
日本国憲法の日本語文法	中村 幸弘	前期	金	12：50～14：20
日本語“どうして”Q&A100 ―日本語の歴史と未来を学ぶ―	中村 幸弘	後期	金	12：50～14：20
文学の風景 ―<うそ>と<まこと>のあわい―	岡崎 直也	前期	土	10：30～12：00
「漢詩を読む」	赤井 益久	後期	火	10：30～12：00
古典と民俗学1―民俗学で読み解く文学の世界と文学に読み取る民俗の世界―	大石 泰夫	通年	土	14：30～16：00
民俗伝承学から日本文化を読む（一）―伊勢神宮と出雲大社：「日本」と「天皇」の誕生―	新谷 尚紀	前期	水	14：30～16：00
民俗伝承学から日本文化を読む（二）―伊勢神宮と出雲大社：「日本」と「天皇」の誕生―	新谷 尚紀	後期	水	14：30～16：00
江戸時代の古文書を読む<初級>	根岸 茂夫	前期	金	12：50～14：20
将軍の日光社参と江戸幕府	根岸 茂夫	後期	金	12：50～14：20
遊べる日本美術6 もっと!遊べる浮世絵―洒落を味わう・おもちゃ絵を愛でる―	藤澤 紫	通年	火	18：30～20：00
世界の中の日本 ―コロナ禍の新冷戦の行方とアジア情勢―	久保田るり子	通年	金	10：30～12：00
『古事記』下巻を読む ―允恭・安康・雄略―	渡邊 卓	通年	木	10：45～12：15
松尾芭蕉の紀行文を読む ―『笈の小文』・『更科紀行』―	中村 正明	通年	金	14：50～16：20
健康と運動の心理学	伊藤 英之	前期	火	10：45～12：15
特別講座「死後の世界 ―死ぬことと生きること―	石井 研士	通年	金	14：30～16：00

※全てオンラインで実施

☎045・904・7660）

証明書発行はコンビニ発行を

因国学院大学「証明書発行サービス」は、必要な証明書の発行をオンラインで申請、クレジットカード・コンビニで現金決済し、全国のコンビニエンスストア（セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン）の各店舗内に設置されているマルチコピー機を利用して、各種証明書を発行するサービスです。「オンライン申請郵送サービス」は、必要な証明書の申請、決済を実施いただき、郵送でお送りするサービスです。別途、必要部数、送付方法により郵送料が必要となります。

※原則として在学生には郵送サービスを行いません

問教務課、たまプラーザ事務課

求）で開講講座を確認し、「受講申込ハガキ」または「FAX用受講申込書」で申し込みを。

問エクステンションセンター
（☎03・5466・0270、FAX03・5466・0394、
✉jigyo@kokugakuin.ac.jp）

オンライン生きがい講座「腰の痛み～自分で防ぎ、自分で治す～」

因“ぎっくり腰”、“ヘルニア”、“慢性腰痛”…これまでにさまざまな腰の痛みを経験されていませんか？ この講座では、前半の座学で自分の身体を知り、後半の実践で実際に身体を動かして、ストレッチとトレーニングに取り組んでいきます。講師は富田一誠人間開発学部教授。ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」で実施。

日・時5月8日(土)10時～11時30分

場ストレッチ・トレーニングができる場所

対特に中高年を対象

定100組（要申込、開催前日18時まで可、先着順）

申次の①、②のいずれかで申し込みを

①大学HP（QRコード）にある申込フォームから

②講座名、申込者氏名（ふりがな）、参加人数、年齢、性別、住所、電話番号、アドレスをFAX（045・910・3754）で送信

料無料

問人間開発学部 地域ヘルスプロモーションセンター

早咲きの桜の下で渋三さくら祭 今年も田原ゼミが協力

河津桜が咲きそろふ渋谷川沿いの遊歩道「渋谷リバーストリート」で2月、渋三さくら祭実行委員会が主催する第3回「渋三さくら祭」が開催された。国学院大学からは田原裕子経済学部教授のゼミが協力。学生たちが企画した「さくら”ホッと”こたつ@渋谷川」が実施され、遊歩道に設置したコタツで暖を取りながら満開の河津桜を楽しめるひと時を多くの来街者に提供した。

ゼミ生たちのイベントへの協力は今回で3回目。今年のテーマは社会事情を考慮して「リフレッシュ」と設定。仕事中の休憩時間に利用する人の姿や地元の方が増えたと、考察した学生たちは手応えを感じていた。



卒業生 土方選手 マラソン日本歴代5位

びわ湖毎日マラソンが2月28日、大津市・皇子山陸上競技場を発着する42.195kmで行われ、2回目のマラソン挑戦となった卒業生・土方英和選手（令2卒・128期健体、Honda）が、自己ベストを大きく縮める2時間06分26秒で2位に入った。優勝した鈴木健吾選手（富士通）は日本記録をマーク。土方選手の記録は日本歴代5位となった。

就職活動ワンポイントアドバイス

インターンシップ 主体的に前向きに

仕事はつらいことが多く、やらされるものだと思っている学生は多いかもしれませんが、実際にインターンシップに参加した学生からは、「社会人はやりがいをもって働いている」「仕事は大変だけど楽しく働いている」という気づきを得たという話を多く聞きます。

そもそも、インターンシップは何のために参加するのでしょうか。

インターンシップは、あなたが憧れる「ヒーロー、ヒロインを見つける旅」です。働く人の立場から主観的に社内を見渡すことができれば、自分に合う職場かどうかや、入社して5年先、10年先の働く姿も明確に見えてくるのではないのでしょうか。複数社のインターンシップを経験するなかで比較ができ、自分にフィットしている会社や、そこで働く社会人の中で尊敬できる「人生の先輩」を見つけることができるのです。

キャリアサポート課では「インターンシップ対策講座（全6回）」を実施し、皆さんを手厚くサポートします。3年生はもちろん、1、2年生も積極的に参加してみてください。

インターンシップでは、一生懸命頑張っても「うまくいかなかった」と思う経験をすることもあります。「失敗だ」とネガティブにとらえるのではなく、「こういう企業（業界）は合わない」「志望する企業（業界）を絞り込めた」と自身の成長や就職活動を充実させることに繋がってみるとよいでしょう。

【キャリアサポート課監修】

ホームカミングデー

オンラインイベントで 若手院友が活躍

例年卒業生を母校に招いて開催していたホームカミングデー。令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けオンラインでの開催となり、新しいスタイルで実施されたイベントで若手卒業生（院友）が活躍した。

2月11日には大学と大阪府泉佐野市をオンラインで繋ぎ「大阪・泉佐野発 私SDGs（持続可能な開発目標）実践論」をビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って開催。タオル製造会社スマイリーアースの代表取締役社長を務める奥龍将さん（平23卒・119期日文）が自然環境への負荷を大幅に抑えた独自のタオル生産技術を紹介した。

奥さんは原材料の綿に含まれる水分などを水だけで精練する「自浄清綿法」を父と協力して開発してきた。イベントでは、スマートフォンを片手に工場の中を案内し、化石燃料の使用や産業廃棄物を極限まで低減する生産工程をわかりやすく解説した。

オンラインイベントには卒業生だけでなく、SDGsに関心を寄せる在学生も多く参加した。「SDGsに興味を持ったが、何から始めたらよいか」という在学生の質問に奥さんは「興味を持ったことに取り組んでみると、大学での学びも繋がってくる。自分が興味を持った部分を掘り下げてもらえたら」とエールを送った。

3月12日にはクラフトビールメーカー「ヤッホーブルーイング」に勤務する柳下桂一郎さん（平31卒・127期史）を講師に「軽井沢発 私が見るクラフトビールのおいしい飲み方」と題したオンライン交流会を開催し、約20人の卒業生が参加した。参加者には事前に同社のクラフトビールをプレゼント。柳下さんは、世界には100を超えるビアスタイルがあり、国内市場では90%以上をラガービールが占めることを説明した。その上で同社が製造する香りや飲みごたえを楽しむエールビールは、「チューリップグラスなどに注いで、香りを楽しみながら少しづ



自ら手にしたスマートフォンで工場内を映しながら紹介する奥龍将さん（ライブ配信映像から）

安全確認まではキャンパスで 東日本大震災10年「備える」

キャンパスの防災 —たまプラーザ—



東日本大震災後の計画停電で、電気が消えたなか業務をする職員（平成23年3月17日、たまプラーザキャンパス）



令和元年12月に行われた防災訓練の様子

リンク集（たまプラーザ編）

- 国学院大学の防災対策
<https://www.kokugakuin.ac.jp/about/efforts/%E9%98%B2%E7%81%BD%E5%AF%BE%E7%AD%96>
- 横浜市の防災・災害ページ
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/>
- 帰宅困難者にならないために（横浜市）
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/bousai-kyukyu-bohan/bousai-saigai/wagaya/jishin/place/konnan/20170131153747.html>
- 内閣府の防災情報ページ
<http://www.bousai.go.jp/index.html>



横浜市青葉区に立地する国学院大学たまプラーザキャンパスでは、現在およそ1400人の人間開発学部生が学ぶ。大災害が発生した際には安全確認ができるまで学生、教職員らが滞在する滞留施設ともなる。全般的な防災対策は本学HPの「防災マニュアル」に明記されており、東日本大震災とその後発生した災害での教訓を生かして1200人が3

日間（72時間）過ごせるだけの備蓄品（飲食・医薬品、マンホールトイレなど）が準備されている。同キャンパスでは毎年12月、学生・教職員に設備・清掃関連の委託スタッフも加えた避難訓練を実施している。例年、約300人が参加する大規模なもので、毎回テーマを変えてハード・ソフト両面で課題の洗い出しに繋がっている。これまでに1号館の外階段から中庭までの避難ルートにあった段差を改修するなど安全な避難ルート確保が実現した。訓練の成果は参加する学生にとっても教職に就いた際に幼稚園や学校の現場で生かすことが期待される。

10年前の「3・11」では当時キ

キャンパスにいた40人（学生27人、教職員13人）が一夜を明かした。震災以降の知見から、賞味期限切れの飲料水を手洗いトイレ洗浄用とする活用策も編み出された。また、コロナ禍によって避難場所の衛生管理がクローズアップされる中、それらに配慮した備蓄も増やしているほか、昨年新設されたSS3に自家発電装置を設置し、これまで以上に設備の整備が図られている。

一方、キャンパス内のグラウンドは震災時に大規模延焼火災が発生した場合、火の手から身を守るための広域避難場所に指定されており、地域防災の一翼も担っている。

オンラインで勧誘活動

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、部会やサークルの新入生勧誘活動はオンラインで実施されている。各団体は、1年生だけでなく、昨年度はほとんど課外活動ができなかった2年生に向けても画面越しに活動内容の紹介を行っている。

4月3日から始まったオンラインでの勧誘活動は、新歓実行委員会は動画配信アプリ「YouTube」を、体育連合会はビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って事前に収録した動画やライブ配信での説明、演武でアピールした。



団体個人の成績

準硬式野球部＝第63回関東地区大学準硬式野球選手権大会決勝が3月25日、上柚木公園（東京都八王子市）で行われた。大会2連覇を狙った同部は中央大学に6－7で敗れた。2年連続4度目の優勝はならなかったが、6月に開催される全日本大学選手権関東予選出場権を獲得した。



スキー部＝全日本学生スキー大会が2月24日～3月9日、北海道阿寒町と札幌市などで行われた。男子2部スラローム、男子回転で飯塚康幸選手（健体3）が2回の滑走の合計タイムで2分1秒11を記録し、3位に入った。この他、安田佑待選手（経1）は6位、野井海南斗選手（経3）が8位で入賞した。

男子大回転では飯塚選手が5位、堀川諒真選手（経ネ4）が6位、船本叶選手（健体1）が7位、樋沢駿甫選手（経2）が9位、高荷智貴選手（健体4）が10位で入賞が続いた。

クロスカントリーではフリー、クラシカルの2種目で林結翔選手（健体2）が3位に入った（学年は当時）。

ソフトテニス部＝令和2年度関東シングルスソフトテニス選手権大会が3月7日、神栖海浜公園テニスコート（茨城県神栖市）で行われた。男子は予選リーグ、決勝トーナメントで争われ、同部から3人が出場した。一昨年の大会で優勝を果たした谷岡凌太郎選手（健体4）は順調に決勝まで勝ち進んだが社会人選手に敗れ、2大会連続のチャンピオンには届かなかった。このほか、下田好輝選手（史2）はベスト16。小出尚典選手（史3）は予選リーグ敗退だった（学年は当時）。



陸上競技部 日本学生ハーフ 島崎選手3位 日本代表へ



先頭集団でレースを引っ張る藤木宏太選手（右から4人目）と島崎慎愛選手（左端）

第24回日本学生ハーフマラソン選手権大会兼ワールドユニバーシティゲームズ（旧ユニバーシアード）日本代表選手選考競技会が3月14日、陸上自衛隊立川駐屯地周回コース（東京都立川市）で行われ、国学院大学陸上競技部からは3選手が出場した。

例年は陸上自衛隊立川駐屯地をスタートし、立川市街地から国営昭和記念公園を駆け抜けるコースで行われている同大会だが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、陸上自衛隊立川駐屯地内の1周約2・6kmの滑走路を周回するコースで観客を入れずに開催された。

強い風が吹き付ける中行われたレースはスローペースで進んだ。島崎慎愛選手（経3）、藤木宏太選手（神文3）は終始先頭集団で上位を競うと、ラストスパートでの勝負に。トップと8秒差の1時間3分8秒で島崎選手が3位、1秒遅れて4位で藤木選手がゴールした。伊地知賢造選手（健体1）は21位だった。

この結果、島崎選手は上位3人に与えられるワールドユニバーシティゲームズの日本代表に内定した。2021年ワールドユニバーシティゲームズは、8月に中国・成都で行われる予定だったが4月、1年間の延期が発表された。（学年は当時）



全日本柔道連盟提供



全日本柔道連盟提供

柔道部 全日本体重別66kg級 相田選手、武岡選手が3位

柔道の全日本体重別選手権、男子全7階級が4月4日、福岡国際センター（福岡市）で行われ、国学院大学柔道部から2選手が、卒業生も2人が出場した。

男子66kg級では、昨年10月の講道館杯で表彰台に並んだ藤阪泰恒選手（平31卒・127期健体、パーク24）、相田勇司選手（法4Ⅱ写真上）、武岡毅選手（日文4Ⅱ写真下）が出場。3人は1回戦を勝利し、準決勝では藤阪選手と相田選手が対戦した。講道館杯決勝の再現となった試合は、4分間の試合時間で決着がつかず延長戦に。8分を超えた試合は、相田選手に3つ目の指導が与えられ反則負けとなった。武岡選手は田中龍馬選手（筑波大）に延長の末、優勢負けし、決勝進出はならなかった。

試合後、相田選手は「勝負は準決勝と分かっていて。自分の柔道はできたが、最後は悪い癖が出てしまった。自分の柔道を一から作り直したい」と、武岡選手は「チャンス物をにできない詰めめが甘さが出てしまった。次は優勝を狙いたい」と悔しさをにじませた。

相田選手を退けて決勝に進んだ藤阪選手は準優勝。男子73kg級では島田隆志郎選手（令2卒・128期健体、パーク24）が3位だった。

硬式野球部 東都大学野球が開幕



開幕2試合で3本の本塁打を放った山本ダントテ武蔵選手（左）

東都大学野球春季1部リーグが3月29日、開幕を迎えた。昨秋のリーグ戦でコロナ禍の特例措置として2～4部の各優勝校が自動昇格したため、今季は昨秋2部優勝の青学大を加えた7校による2回戦総当たりで行われ、勝率で順位を決める。

開幕カードで昨秋優勝の亜細亜大学と対戦した国学院大学硬式野球部は初戦、3回に3番・山本ダントテ武蔵選手（経4）の3ラン本塁打などで一挙5点を挙げ、8－1で白星スタート。山本選手は翌日の2回戦でも2打席連続本塁打を放ったが、チームは終盤に逆転を許し3－4で惜敗した。

第2週は、駒沢大学を相手に1勝1敗。試合がなかった第3週を終え4月16日現在、2勝2敗で2位タイにつけ、優勝争いが熾烈になる後半戦を迎える。



令和3年度 國學院大學 入学式

入学式

期待も緊張も胸に新たな一歩

4回に分かれて挙行された入学式。感染対策が呼びかけられ、緊張感に包まれた学生生活のスタートとなった。

新入生代表宣誓（要旨）

文学部 清野環さん（目文）

日本文学だけでなく、日本語学や伝承文化なども幅広く学び、さまざまな視点で研究したい。国学院大学の図書館には文献や貴重な資料がたくさんあるので最大限活用したい。



経済学部 高橋里朋さん（経営）

経済とはどのようなものなのか深く学びたい。グループワークを通じてコミュニケーション能力や、プレゼンテーション能力を身につけ、実社会で力を発揮できる人材になりたい。



法学部 林駿太郎さん

法律は私たちの日常社会において身近な存在だ。4年間で専門分野を究めることで自分の可能性を発見し、社会に貢献できる人間に成長したい。新たな出会いも大切にしたい。



神道文化学部 岩崎峻也さん

古来より日本人が守ってきた神社や鎮守の森を、さらには日本の伝統や文化を後世に継承していきたい。4年間で先生方から多くを学び、神道に対する理解を深めたい。



人間開発学部 田中琢人さん（健体）

10年以上サッカーを続ける中で、体と精神面で選手を支えるトレーナーに憧れを抱いた。スポーツマネジメントなど専門知識を学びたい。蹴球部に入り文武両道を目指す。

